

アミノクロウサギは、世界中で奄美大島と徳之島にのみ分布する固有種です。奄美大島や徳之島は、約 1,200 万年前～200 万年前に大陸から隔離されたため、ウサギの中でも原始的な形態を残しつつ、特異な進化を遂げた生きものです (p.5-6 参照)。国の特別天然記念物であり、環境省レッドリストでは絶滅危惧種 IB 類に指定されています。生息数は 2003 年時点では、奄美大島で 2,000～4,800 頭、徳之島で約 200 頭と推定されていましたが、2021 年時点での推定値は、奄美大島で 10,024～34,427 頭、徳之島で 1,525～4,735 頭となっています。アミノクロウサギを捕食するマングースやノネコ(野生化したネコ)の防除などの外来種対策が進んだことが生息数の増加につながっていると考えられています。

島によって異なる利用環境

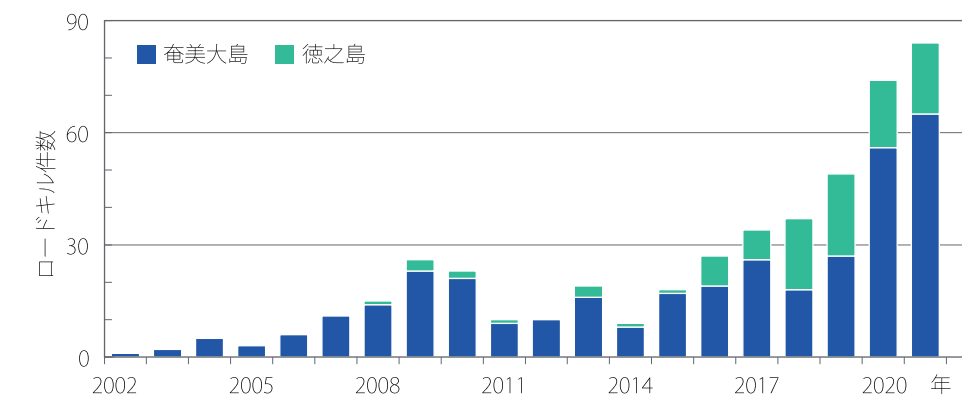
アミノクロウサギは森林性の動物とされています。奄美大島でアミノクロウサギが確認されている箇所(マップ:ピンク色の斜線の範囲)の多くは山地(マップ:薄い緑色の範囲)ですが、徳之島では山地から離れた海岸付近でも確認されており、必ずしも山地に限定して生息するわけではないことがわかります。奄美大島北部の笠半島に生息していないのは、地形やこれまでの土地利用が分布拡大を制限する要因になっているためだと推測されます。

交通事故の増加

近年、個体数の回復にともなって、アミノクロウサギの交通事故(ロードキル)件数が増加しており、保護・保全上の大きな問題となっています。

アミノクロウサギは夜行性で、道路上でも糞をしたり、餌を食べる姿が確認されており、夜間の交通事故が多発しています。また、繁殖が盛んになる秋から冬にかけて交通事故の件数が多くなっています。さらに、アミノクロウサギの交通事故は、林道だけでなく、スピードの出やすい国道や県道上でも発生しています。

奄美大島、徳之島は、希少な野生生物が暮らす森林と人が利用する場所が隣接しており、豊かな自然を身近に感じられることが魅力ですが、一方で、自然が人為的な悪影響を受けやすい場所でもあります。希少な野生生物を守るため、観察時のマナーを守り、運転時にはスピードを出しすぎないことが大切です。



アミノクロウサギ(ウサギ科アミノクロウサギ属)
 大きさ(頭胴長)は 40～50cm。眼と耳は小さく、足も短い。爪は 1.5cm と強力で、穴を掘るのに適した体をしている。体毛は厚く、暗褐色。尾は非常に短い。
 主に夜行性で、ススキなどの草本、シダ、シイ(スダジイ)の実などを食べる。ねぐらや子育てに土穴を掘る。秋から春にかけて繁殖が盛んに行われる。生まれた子どもは 1ヶ月ほど土穴の中で育てられる。子育て中、母ウサギは 2日に1回、授乳のために子ウサギのいる土穴に通う。

[出典] 地形区分 「20万分の1土地分類基本調査(地形分類図)鹿児島県」(国土交通省)
 ・陰影 基礎地図情報数値標高モデル 10mメッシュ(標高)より作成
 ・市町村界 「国土数値情報(行政区画データ)」(国土交通省)
 (https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03-v3_1.html#prefecture46)
 ・背景図 地理院タイル(淡色地図)

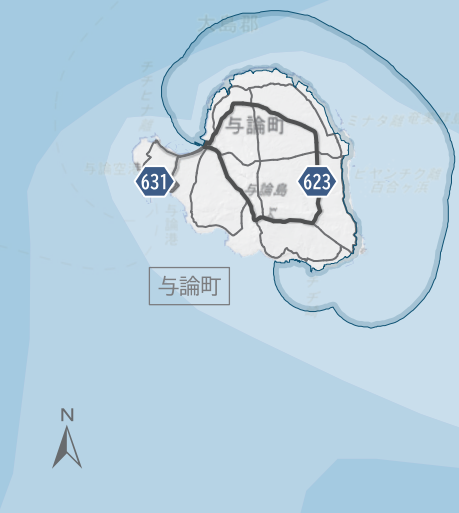


- 奄美群島の希少種保護活動はこちら
- 凡例
- ロードキル発生状況(2021年時点)
 - 1～2件
 - 3～5件
 - 6～10件
 - 11件以上
 - 主要道路
 - 58 国道
 - 627 県道
 - その他の主要道路
 - アミノクロウサギ確認(2021年時点)
 - 確認あり
 - 地形区分
 - 山地

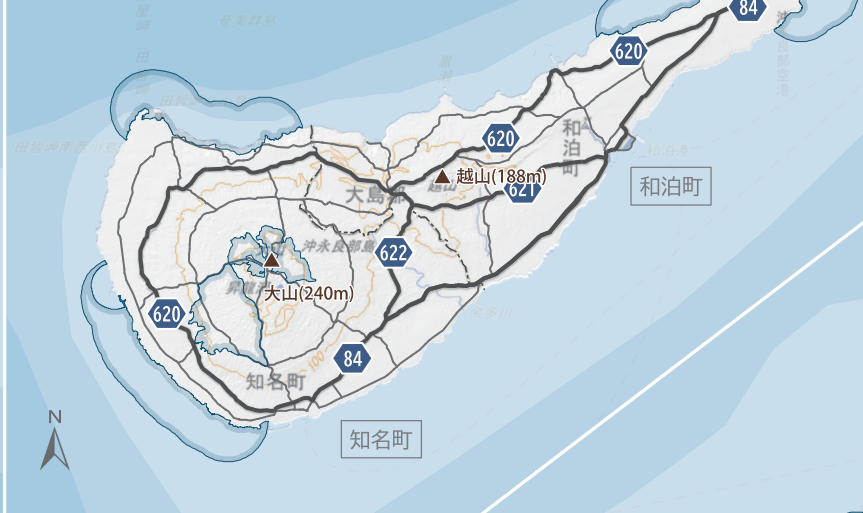
加計呂麻島 与路島 喜界島 奄美大島 請島 徳之島 沖永良部島 与論島 沖縄本島

索引図

与論島



沖永良部島



奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島

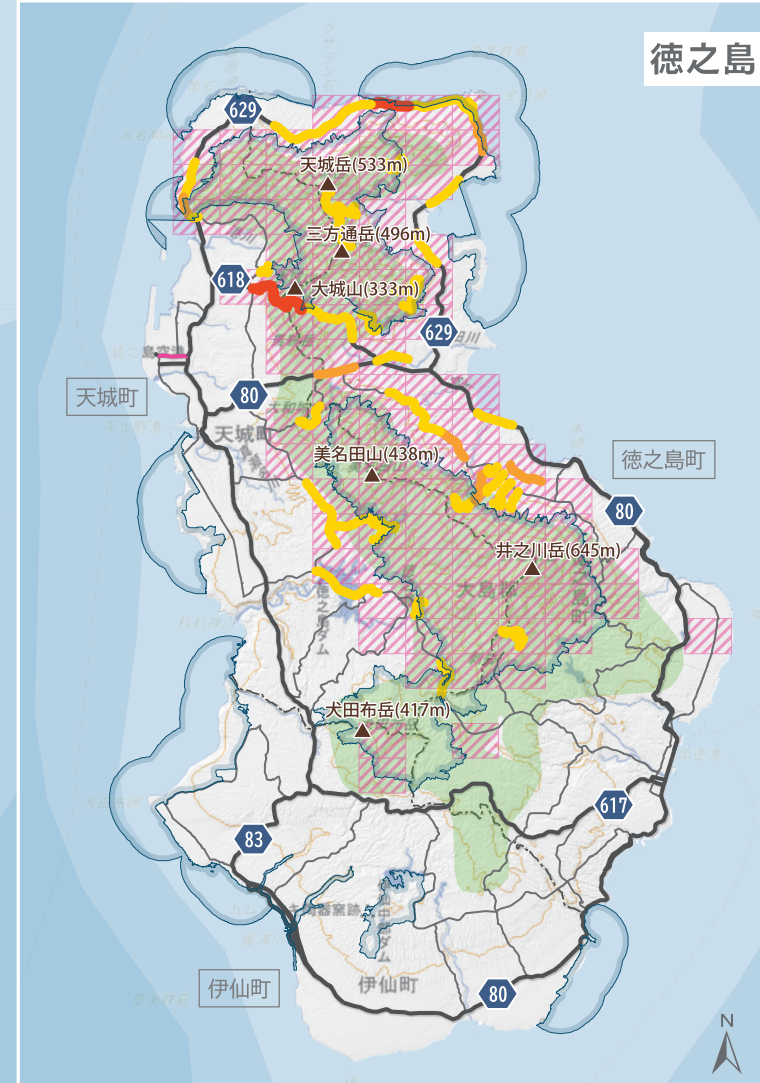
奄美大島 加計呂麻島 与路島 請島 喜界島 徳之島

奄美群島国立公園 市町村界

0 5 10km

*測量法に基づく国土地理院長承認(使用) R5JHs 80
 山地: 出典元のデータの縮尺により、地図にずれや抜けが生じています

徳之島



喜界島

